

令和6年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第四小学校

校長名 南方 孝之

教育目標

- ◎進んで学ぶ子
- 思いやりのある子
- 体をきたえてがんばる子

1 目指す特色ある学校像

「元気いっぱい 笑顔あふれる みんなの学校」を合言葉に、保護者・地域と協力し合い、児童の確かな学力の定着と健やかな心と体の育成を目指す。

- ◇ 自ら積極的に学び、認め合う授業を通して、確かな学力を身に付ける学校
- ◇ 人とのかかわり合いを大切にして、思いやりのある子どもを育てる学校
- ◇ 家庭と連携して望ましい生活習慣を確立し、健やかな心と身体をつくる学校
- ◇ 本物に出会うことで学ぶ意欲を高め、探究心と豊かな人間性を育てる学校
- ◇ 地域と連携を図り、地域から学び、地域に誇りをもてる子どもを育てる学校

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- ア ICTを効果的に活用した授業改善と個別最適化された学びの実現及び家庭学習の充実により、児童の基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- イ 幼保小連携により、基本的な生活習慣を確立するとともに、小中一貫教育の視点から、自分自身とかかわる全ての人を大切にする意識を高め、社会性の向上を図る。
- ウ 家庭と連携して「早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き」の確実な定着を図るとともに、多様な運動に親しむことを通して、体力の向上を図る。
- エ コミュニティ・スクールとして、地域と連携した教育活動を積極的に推進し、児童の豊かな学びと、充実した学校生活の実現を目指す。
- オ 校務のデジタル化とペーパーレス化を恒常化し、学校と家庭とのオンライン化も推進する。
- カ 主幹教諭が要となり、主任教諭を活用した校内研修の充実を通して、全ての教員の指導力や校務遂行能力の向上を図る。

(2) 本年度の目標

- ア 知を伸ばす。
 - ① ICTを効果的に活用した授業改善と、個に応じた支援の充実。
 - ② 主体的な学習習慣の定着と、対話による思考力・判断力・表現力の向上。
- イ 豊かな心を育む。
 - ① 道徳教育と人権教育の充実。
 - ② 規範意識や自己有用感の向上を目指した指導の工夫。
- ウ 心身を鍛える。
 - ① 児童が楽しみながら、継続して行える運動の充実（運動の日常化）。
 - ② 最後まであきらめずに精一杯取り組む心の育成。
- エ 教職員の専門性の向上を図る。
 - ① 校内相互授業参観の日常化と、模範授業や研修会等への積極的な受講推進。
 - ② 交換授業や教科担任制による専門性の向上。

3 目標達成に向けての課題

- (1) 望ましい学習習慣及び生活習慣の定着に向け、家庭との連携が重要である。
- (2) 違いを受け入れ、良さとして受け止める、寛容な心を育成することが大切である。
- (3) コミュニティ・スクールとして、保護者・地域との連携をさらに強化していく。

4 経営の具体策

- (1) 子どもの知を伸ばす。
 - ア 学習習慣の定着に課題を抱える児童のために、平日放課後の補習教室への参加を促す。「ふっさっ子の広場」と連携し、1学期から週に3回程度の実施を目指す。
 - イ 朝の時間は、タブレットを使った朝学習と朝読書を継続して行う。単学級では、担任と副担任による複数指導体制を継続して行う。
 - ウ サマースクール（夏季補習）では、高校生ボランティアによる指導の充実を図る。
 - エ 家庭学習では基礎的な事柄の習熟とともに、自主学习ノート等、子ども自身が選択した課題にも低学年の段階から取り組ませ、自主的な学習態度の育成を図る。
 - オ 交換授業や教科担任制を推進し、教師の専門性を生かした授業改善に努める。
- (2) 豊かな心を育む。
 - ア 2学級ある学年は、毎年クラス替えを行う。固定しがちな人間関係をリセットすることにより、新たな人間関係を構築させる。
 - イ 単学級の学年には副担任を配置し、複数指導体制を推進する。また、担任も毎年変わることを原則とする。様々な大人とかわるることにより、協調性やコミュニケーション能力の育成につなげる。
 - ウ 「ハッピータイム（縦割り班活動）」や体力テスト・全校遠足等では、異学年交流を活発に取り入れ、相手を思いやる優しさと、寛容な心を培う機会とする。
- (3) 心身を鍛える。
 - ア 専門家やアスリートをゲストティーチャーとして招聘し、運動能力の向上を図る。
 - イ 持久走や縄跳びを1学級1取組に位置付け、カード等を活用しながら年間を通して取り組み、体力の向上につなげる。
 - ウ 運動会や音楽会等の行事は常に全力で取り組ませ、達成感や満足感を味わわせる。
- (4) 教職員の専門性の向上を図る。
 - ア 模範授業や研修会等で得られた成果は、OJTや資料配布等で校内の教員に還元する。

5 年度末のチェックポイント

- (1) 全国学力学習状況調査で、全体の平均数値が1ポイント以上増加しているか。
- (2) 毎日の家庭学習の習慣が、100%達成できているか。
- (3) ICTの利活用として、ドリルパークの使用率が常に70%を超えているか。
- (4) 不登校の児童について、電話や対面等、一日に一回は担任が接触しているか。
- (5) 保護者やCS委員・地域による学校評価で、「児童は楽しく学校生活を送っている」という項目の肯定的評価が、95%以上になっているか。